

せいしんがい報

2020年1月1日 第123号

注目記事

- ◆1～3ページ 新年のあいさつ
- ◆4ページ ふじみの森フェスティバル・歩行者天国 他
- ◆5ページ 高齢者施設訪問・親子遠足・ウォーキング
- ◆6ページ やしおみ荘へ行こう・研修報告

法人本部
〒972-0161 福島県いわき市遠野町上遠野字堀切12-1
☎(0246) 74-1551 ㊟(0246) 74-1561

救護施設やしおみ荘
〒972-0161 福島県いわき市遠野町上遠野字堀切27
☎(0246) 89-3333 ㊟(0246) 89-3334

障害者支援施設ふじみの園・ショートステイほっと
〒972-0252 福島県いわき市遠野町上根本字白坂384-1
☎(0246) 89-3400 ㊟(0246) 89-3454

グループホーム レジデンスなごそ
メゾン・ド・あたご、メゾン・ド・ほりきり、コーポおかおな

就労継続支援B型ワークセンターしおさい
〒971-8161 福島県いわき市小名浜諏訪町1-10
☎(0246) 73-2077 ㊟(0246) 73-2078

就労継続支援B型天真庵
〒974-8212 福島県いわき市東田町2-11-7
☎(0246) 77-2033 ㊟(0246) 77-2733

障害児通所支援第2チャーむ・日中一時支援第2チャーむ
〒973-8409 福島県いわき市内郷御台境町鶴巻45-2
☎(0246) 84-6882 ㊟(0246) 84-6883

障害児通所支援みよん・日中一時支援みよん
〒974-8261 福島県いわき市植田町林内11-1
☎(0246) 85-5720 ㊟(0246) 85-5721

ハーモニセンター
〒971-8162 福島県いわき市小名浜花畑町19-10

・指定特定相談事業所せんとらる
☎(0246) 38-3520 ㊟(0246) 38-3521

・就労継続支援B型・就労移行支援虹のかけはし
☎(0246) 73-0111 ㊟(0246) 73-0112

・障害児通所支援チャーむ・日中一時支援チャーむ
☎(0246) 73-2033 ㊟(0246) 73-2034

2020 令和2年

謹賀新年

社会福祉法人 誠心会 理事長 松崎 有一

明けましておめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。当法人は昨年で設立40周年を無事に迎えることができました。これも一重に、法人に関係する方をはじめ、多くの皆様方からのご支援の賜物と思っております。どうぞ今後ともよろしく願いいたします。

さて、昨年は世界でも多くの出来事がありました。香港において学生達を中心とした民主化を目指す大規模なデモの運動や、フランスにおける世界遺産のノートルダム大聖堂での大火災、北朝鮮によるミサイル発射実験や米中貿易摩擦による経済の混乱などがありました。我が国においては、天皇陛下退位により、「平成」から「令和」へと改元され、新時代が到来しました。また、国家財政の大きな赤字が続き、消費税率10%に引き上げられ、国は全世代型社会保障を目指すべく政策に着手しました。さらに、台風による大きな被害や沖縄における首里城の火災による消失などのニュースが飛び込んできました。一方明るいニュースとしては、吉野彰氏によるノーベル化学賞の受賞やローマ教皇が38年ぶりに来日する等、大きな話題がありました。

福祉に目を向けてみると、制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指そうと、様々な施策が提起されてきています。それらは、平成29年に社会福

祉法改正案が国会に提出され、「地域共生社会」の実現に向けてその法案は可決・成立し、平成30年に施行され、令和元年には地域共生社会推進検討会が設置されました。令和元年7月には中間取りまとめが行われ、支援を必要とする住民が抱える多様で複合的な地域生活課題についての把握及び関係機関との連携など、地域福祉推進の理念が規定されました。地域住民の地域福祉参加の促進等、市町村が包括的な支援の体制をつくること、市町村が地域福祉を策定するよう努め、地域福祉計画を充実させること、等が挙げられます。これらは、住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくりや他機関の共同による包括的支援体制の構築であり、関係機関は総合的な相談支援体制をつくることが求められています。このように、誰もがその地に生まれ、育ち、その地で安心して生活が送れる「福祉社会」が来ることを望んでいます。

当法人も、昭和、平成とその時代の潮流のもと事業を展開して参りましたが、今後は、令和という新しいステージのもとで何ができるかを役員一同、原点に戻り事業を推進して参りたいと考えております。どうぞ、各関係者の皆様におかれましては、倍旧のご指導ご鞭撻くださいますよう、重ねてお願い致しまして、年頭のご挨拶にかえさせていただきます。

2020

令和三年

新年のごあいさつ



救護施設 やしおみ荘

施設長 渡邊 誠二郎

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年中は、利用者様やご家族様、そして地域の皆様より、暖かいご支援やご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は台風19号がいわき市に直撃し、市内各地が甚大な被害に見舞われました。自然災害の脅威を感じ、改めて利用者の安心、安全に対する配慮の重要性を確認した1年となりました。

やしおみ荘では、『地域に信頼され、地域に愛され、地域と共に進化し、信頼と安心と安全、人権を尊重し、そして生きがいを提供する』という経営理念のもと、職員一同一丸となって努力して参りました。地域福祉の中の救護施設として、重要な位置づけとしてお役に立つことができたのではないかと考えております。これもひとえに、地域住民、各関係機関等の皆様のご理解とご協力があったからこそ、継続できたものと深く感謝申し上げます。

さて、毎年恒例の行事として開催しておりました「やしおみ荘夏祭り」ですが、近年、毎年のように続いております、記録的な猛暑と入所者の高齢化に伴う入所者の体調面を考慮いたしまして、今年より「やしおみ荘秋祭り」として時期を秋に変更して開催することといたしました。開催時期は変更となりますが、これからも地域の皆様と共に一緒に楽しむことができるよう、職員一同取り組んで参りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

今後、私たちは、地域の活動を通じて社会貢献に力を入れるなど、地域に根差した施設を目指していきたいと考えております。まだまだ力不足は否めませんが、本年も利用者様、ご家族様、そして地域の皆様方の変わらぬご指導ご支援をお願い申し上げます。皆様におかれまして

も、今年が良き年になりますように、ご祈念申し上げます、年頭の挨拶とさせていただきます。

共同生活援助

管理者 永沼 憲一

令和の時代もあっという間に2年目に突入いたしました。利用者様はじめ、ご家族様、地域の皆様、福祉に関係する皆様には、健やかに新年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。また、日頃より私どもの福祉活動に対しまして多大なご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、「昨年国内を沸かせた出来事は？」と問われ、「ラグビーのワールドカップ」と答える人は少ないと思います。そして私もその一人であるわけですが、今大会を通して日本チームが、そして世界の各チームが教えてくれたことは非常に大きかったようです。勿論屈強で俊敏な男たちのぶつかり合いと日本チームの活躍が感動を呼んだことは言うまでもありませんが、それ以外の所でも…。

今大会と時を同じくしてやってきたのは史上稀にみる猛烈な台風。多くの方が被害にあわれましたが、選手の皆さんが被害者支援に協力してくれている姿が多数報道されました。まさにノーサイドの精神、ワン・フォア・オール、オール・フォア・ワン、これを見せてくれたと思います。我々福祉に携わる者たちにとっても見習えることが大きかったようです。いつだって根本的に大切なのは支えあい…、そういうことだと感じました。

今年も新たなスタートです。小さなことから一歩ずつ、この支えあいが実現できるように、職員一同微力ながら業務に尽力いたしますので、皆様のご指導、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

障害児通所支援

チャーむ・第2チャーむ・みによん

管理者 小宅 幸恵

あけましておめでとうございます。令和最初のお正月、格別の思いであります。

旧年は関係各位のご協力と多大なるご支援を賜り、無事に業務を遂行できたことを自負しております。誠にありがとうございました。

さて、令和の時代になり、その時代に込められた思いと真摯に向き合い、自分の価値観を見つめ直してみたところ、やはり利用者やその家族、地域の方々全てがそれぞれの価値観を有しているわけですから、その多様性を令和の思いに込められた「美しい調和」を意識して、全ての人の価値観を尊重した調和のとれた社会づくりに貢献していきたいと思いました。

子年は、十二支の中で一番初めに位置することから新たな物事を始めるのにふさわしい時期でもあります。夢や希望を持ってチャレンジする精神は決して忘れてはいけないことだと思いますし、今年はこの気持ちで頑張っていきたいと思えます。本年もよろしくお願い致します。

就労移行支援・就労継続支援B型

虹のかけはし

就労継続支援B型

ワークセンターしおさい、天真庵

管理者 木村 大

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

利用者様、ご家族様、関係機関の皆様、そして地域の皆様には常日頃より格別のご理解とご協力を賜っておりますことを深く御礼申し上げます。

昨年は天皇陛下が御退位されるとともに新天皇陛下が御即位され、新しい元号が「令和」に変わる特別な年となりました。即位礼正殿の儀をはじめ、皇室関係の行事に興味を示した方も多かったと思えます。皇室といえば、日本で初めての知的障害児者施設「滝乃川学園」と深いつながりがある事が有名です。創設者である石井亮一は「人は、誰かを支えている時には、自

分のことばかり考えているけれど、実は相手からどれだけ恵みをもたらしているかは、気づかないものだよ。」という言葉を残しています。

当事業所では働く為に利用者様が通われ、自己実現に向けた支援を行っていますが、石井亮一の言葉に照らし合わせますと、無意識のうちに職員も学ぶ事も多く、時には元気をいただいております。元号が変わっても、支え合うという福祉の原点は変える事なく、今後も支援していくつもりでございます。

本年も地域と共に支え合いながら、利用者様の夢を叶えるべく邁進して参りたいと思えますので、職員一同、皆様のご支援ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

相談支援事業所

せんとらる

管理者 七木田 俊介

謹んで新年のお喜びを申し上げます。

昨年中は利用者様、ご家族様、地域の皆様、関係機関の皆様より暖かいご支援やご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は「平成」から「令和」へと歴史の変わり目の年となりました。「令和」とは人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つという意味とのことです。せんとらるも令和の意味するごとく、利用者様と心を寄せ合い、利用者様が人生の希望の花を咲かせることができるようお手伝いしていきたいと思えます。

せんとらるでは昨年末より相談支援専門員が2名体制となり、今後は今まで以上に利用者様にお会いし、お話をする機会が増やせると考えております。また、職員一人ひとりが専門性の向上を図り、職員間で連携を図り、「ONE TEAM」として、利用者様に寄り添った支援を目指していけるよう努力して参る所存でございます。

本年も皆様のご支援ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

高齢者施設訪問

ちゃーむ・第2 ちゃーむ・みによん

9月14日（土）毎年恒例となりました高齢者施設訪問、今年もサニーポート小名浜様へ訪問させていただきました。利用者の代表が元気よくあいさつすると、始めに第2 ちゃーむの子ども達がヒット曲「パプリカ」や「幸せなら手を叩こう」に合わせて可愛いダンスを披露しました。2番手は、みによんの子ども達が「小さな世界」と「さんぽ」を歌と楽器演奏で披露し、高齢者の方々に手拍子してもらいました。最後はちゃーむの子ども達が毎月行っているフラ体操を披露し、上手にできて喜んでもらいました。ピアノ演奏として、みによんの利用者にNHK連続テレビ小説の曲「優しいあの子」を含む3曲を演奏してもらい、大きな拍手をいただきました。その後の交流会では子ども達とタッチをしたり、握手をしたりと楽しく過ごし、高齢者の方々に子ども達の元気を届けられたと思います。



親子遠足

ちゃーむ・第2 ちゃーむ・みによん

11月30日（土）児童3事業所合同での親子遠足を開催しました。たくさんのご家族にご参加いただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。今年は観光バスに乗って、「東北サファリパーク」へ行きました。バスの中では添乗員のダジャレたっぷりの楽しいお話に大笑いしながら、あっという間に時間が過ぎていきました。サファリパークでは、動物達のショーやバスで移動しながらラクダやキリン等の餌やりを楽しみました。動物への餌やりでは、至近距離で見るライオンに圧倒されたり、バス内に象の鼻が侵入したりと、スリル満点な餌やりを体験することができました。お蔭様で、帰りのバスの中では、子どもたちの「楽しかった」の声をたくさん聞くことができました。保護者の皆様、大変お世話になりました。来年も是非、たくさんのご家族のご参加をお待ちしております。



ウォーキング



ふじみの園

11月6日（水）いわき市21世紀の森公園で、秋を感じながら健康増進を目的とした行事の「ウォーキング」を開催しました。利用者40名・職員12名の計52名が参加し、快晴のもと公園のわんぱく広場周辺を歩きました。元気よく5周歩く方もいれば、ゆっくりと2周歩く方等、それぞれが自身のペースで歩いていました。元気よく歩き切った後の弁当は格別で、皆「美味しい」と笑みを浮かべながら食べており、おやつやジュースも出て利用者は喜んでいました。食休みした後は、公園内を散策したり、滑り台で遊んだりし、一人ひとりが気分をリフレッシュすることが出来た1日になったのではないかと思います。





11月28日(木)と12月3日(火)上遠野小学校4年生が来荘し、利用者との交流を通して、やしおみ荘の施設や福祉について学ぶ「やしおみ荘へ行こう」を行いました。

1日目は、施設長から施設の概要や障がいに関する福祉講話をしました。メモを取りながら真剣に講話を聞いた後の質疑応答では、事前に聞きたいことや今回の福祉講話を聞き、改めて疑問に思ったことや知りたいことを施設長に質問していました。職員に対しても、「大変なことは何ですか」「嬉しかったことはどんな時ですか」と質問を受けました。近年、介護問題や介護の仕事に関する話題が紙面やニュース等でも見かけますが、子ども達も介護の現場に興味を持っている事、自分達の言葉で福祉の話をする機会があった事を嬉しく思いました。



福祉講話の後は体育館で子ども達が合唱・合奏・ダンスを披露してくれました。合唱では、前期のNHK連続テレビ小説「なつぞら」の主題歌「優しいあの子」を歌ってくれました。毎日欠かさず『朝ドラ』を見ていた利用者にとっては馴染みの曲です。聞いたことのあるメロディーが流れてくると、左右に体を揺らしながら手拍子をとっている利用者が多く見受けられました。ダンスでは、軽快な曲調と子ども達のダイナミックな表現に圧倒されました。

2日目は子ども達と利用者が6グループに分かれ、一緒にクリスマスの飾りを製作しました。

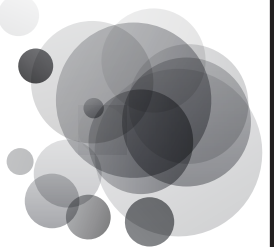
小さいサイズの板に、市販の芝少量を木工ボンドで模った箇所に貼り付けてクリスマスツリーの木に模し、そこへプレゼントの箱や星等の飾りをつけました。同じオーナメントでも、貼り付ける場所や他に何を飾るかによって仕上がりも異なります。はじめは何を作ったら良いか悩んでいるようでしたが、自分の作りたいデザインがひらめくと、「ここにこれをつけたい」「もっとこれが欲しい」といった声があちこちから聞こえてきました。子ども達も自分の作品を作りながらも、利用者がどうしたいのかを聞いてからお手伝いをしてくれており、利用者も声をかけてくれたこと、一緒に作れたことが楽しかったようです。子ども達から「毎年飾れるね」「今日から飾ろう」と感想も聞かれ、一つとして同じものがない素敵な作品が出来上がりました。

この行事の中で実際に利用者と交流することによって、将来を担う子ども達の高齢者や障がい者に対するイメージが少しでも変化し、活かしてほしいと思います。

チームリーダー研修報告

ふじみの園副主任生活支援員 江間 若菜

9月5日(木)～9月6日(金)の2日間、福島県総合社会福祉センター講堂にて開催された「令和元年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 チームリーダー研修」に参加させていただきました。今回の研修を通して、自身の置かれている立場と今後担う役割について振り返ることが出来ましたが、それと同時に今の自分には達成出来ていないことがたくさんあり、特に副主任という立場において、他職員を引っ張る力や、後輩を指導する力が弱いということを痛感しました。自身の発言・行動に自信を持ち、根拠をもった支援を行うこと等、他職員の手本となれるよう日々の業務にあたっていきたいと思います。また、傾聴と受容を忘れず、他職員の声に耳を傾けながら話しやすい環境をつくり、よりよい支援を目指す為に他職員との連携を深めていきたいと思えます。



寄付を頂いた方

佐藤 淳一様 (佐藤理容所様)

関根 高夫様

編集後記

昨年は台風19号により、いわき市を含め、福島県内の一部地域では河川の氾濫等で甚大な被害を受けました。未だにその爪痕は残り、復興・復旧に尽力しています。その中で年の越しとなりましたが、今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。自国での夏季オリンピック開催は56年ぶりとなり、どのような大会となるのかが今から楽しみです。世界・日本の多くの方がお互いに元気をもらい合えるような機会になれば良いと思います。

今期のインフルエンザは早い時期から猛威を振るっています。手洗い・うがい、マスクの着用、換気等、あらゆる感染予防の対策をとり、冬を乗り切りましょう。